

# 後飾道 裝飾事 典

Encyclopedia of Matsuyama | DOGO DESIGN

## はじめに

この『道後装飾事典』には、「装飾」「デザイン」といった視点から道後の路上を観察し、集められた街の姿が収められています。

道後温泉本館改築120周年である『2014年』の道後を、それぞれの思いを込め、写真と文章で記録・表現しました。



## もくじ contents

道後街歩きマップ	3	湯神社・中嶋神社	29
谷屋	5	ふなや	32
ワニとサイ	9	道後のまちかど	35
伊佐爾波神社	10	道後のいろいろ話	39
宝蔵寺	14	こんなところも！	41
上人坂	16		
円満寺	21		
常磐荘	22		
道後温泉本館とその周辺	25		



# 道後街歩き マップ

DOGO  
machi aruki MAP

道後ハイカラ通り(道後商店街)  
dogo haikara dori

2014年11月に行われた

『道後装飾事典』ワークショップで訪れた場所や建物です。

本書には、この散策経路を歩いて観察された内容が収められています。

道後温泉駅  
dogo onsen sta.

散策経路  
市内電車

道後公園  
dogo park

- |                                    |                           |                                |
|------------------------------------|---------------------------|--------------------------------|
| 1 子規記念博物館<br>shiki memorial museum | 5 伊佐爾波神社<br>isaniwa jinja | 9 常磐荘<br>tokiwasou             |
| 2 谷屋<br>taniya                     | 6 宝巖寺<br>hogonji          | 10 道後温泉本館<br>dogo onsen honkan |
| 3 ふなや<br>funaya                    | 7 上人坂<br>shonin zaka      | 11 湯神社<br>yu jinja             |
| 4 ワニとサイ<br>wani to sai             | 8 円満寺<br>enmanji          | 12 中嶋神社<br>nakashima jinja     |





## 自宅に欲しい!?

谷屋の中で見つけた本棚です。よく見ると、棚の幅がそれぞれ違ってきます。文庫本用の棚、A4サイズの本まで入る棚、と分けることで、壁を最大限に有効活用できるのです。本をたくさん持っているからこそ活かされるこの棚。読書好きにはたまらないのでは。

岡部桃子



## 静と動

荒々しく、力強くかかれた「肉眼ではな」という字。その目の前の机に置かれた小さなかぼちゃ。その二つが合わさって、正反対だけどマッチしている空間だと感じた。

はらだこころ



## 憩いの場

谷屋の中に入っていくと、緑や自然がいっぱいでとても落ち着くなと思いました。

メダカも泳いでいて癒されました。

干し柿がっらなっているのがカーテンみたいでかわいかったです。

ゆいゆい



## 羽で雨やどり

雨粒が落ちてきた。

ふと 下方に目をやると、羽を高くあげ 雨よけする鳥がいた。

足をたたみ、首をまるめ、口ばしを閉じ、じっと遠くを見つめている。突然の雨、わたしは傘を持たずに濡れていた。わたしにも羽があったらなあ。

瀬戸麻理乃



812年の建立とされる。仏堂にある地藏尊は一尺二寸(36.7cm)の高さがあり、「湯の大地蔵」「火除け地藏」「延命地藏」などと呼ばれている。

女子が思わず足を止める



円満寺にあるこの飾りは、お寺のあちこちで見ることが出来ます。和柄がとっても可愛く、円満寺の印象をパツと華やかにしています。色とりどりの飾りは湯玉に見えなくも…ない!?

「かわいい!!」の声が聞こえる円満寺、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

岡部桃子



旅館 常磐荘

大正九年建造の大正ロマンの雰囲気漂う常磐荘。入口に入るとレトロな小物が出迎えてくれます。自慢の天然温泉は「道後温泉本館」と同じ源泉を使用しています。

つゆぐちちかこ

大正9年(1920年)に建てられた常磐荘は、道後の往時の様子を伝える数少ない旅館の一つ。2012年に改修耐震工事を実施。



磨り硝子のデザイン。  
贅沢。

普段あんまりまじまじと見ないけれど、注意深く見てみると、すこく好きな模様を見つげられたりする。しかもけっこうな確率で！

これは常磐荘という旅館の一室に据えられていた、磨り硝子。なにかの結晶が集まったようならずと見ていたい贅沢さ。

星



飛び立ちたい

鳥は、最後には、  
波にのまれてしまうかな。

徳永高志